

トビウオ通信 (H27 第 4 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 27 年度第 1 回日本海スルメイカ漁況予報》

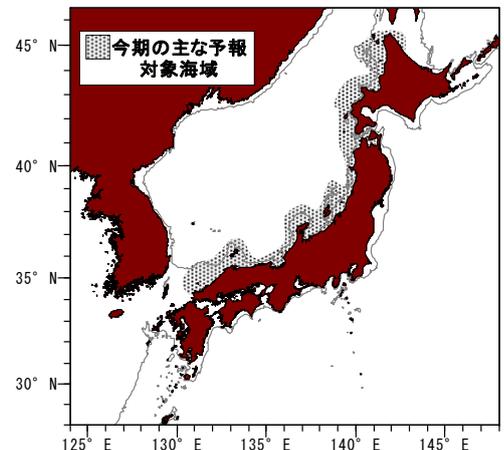
平成 27 年 4 月 28 日に国立研究開発法人水産総合研究センター(日本海区水産研究所)より「平成 27 年度第 1 回日本海スルメイカ長期漁況予報 ※¹」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

今後の見通し(平成 27 年 5 月～7 月)のポイント

対象魚種：スルメイカ
対象海域：日本海
対象漁業：主にいか釣り漁業
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：前年及び近年平均を上回る。
- (2) 漁期・漁場：漁期の開始時期は前年同様、近年平均並み。
ただし、漁場は石川県以北を中心に形成。

* 近年は最近 5 年間(平成 22 年～平成 26 年)



(1) 来遊量

平成 26 年 10 月～11 月に実施された日本海スルメイカ幼生分布調査では、スルメイカの幼生分布量は前年・近年平均を上回る状況でした。また、平成 27 年 4 月に実施された漁期前調査(スルメイカ新規加入量調査)では、今期に漁獲が期待されるサイズのスルメイカの分布量は、前年・近年平均を上回る状況でした。こうした調査結果から、今期(5 月～7 月)の来遊量は「前年及び近年平均を上回る」と予測されています。

(2) 漁期

漁期については、①平成 27 年 4 月中旬の日本海の表面水温は、北緯 40 度付近より南側はほぼ平年並みであること(気象庁※²、旬平均海面水温)、②今後(4 月～6 月)の海水温が「平年並み」(平年は過去 30 年の平均値)で経過するとの海況予測(第 1 回日本海海況予報 ※³、国立研究開

発法人水産総合研究センター平成27年4月8日公表) から「漁期の開始時期は前年同様、近年平均並み」と予測されています。

(3) 漁場

スルメイカ新規加入量調査では、今期に漁獲が期待されるサイズのスルメイカが主に能登半島以北で多数採集されたことから、漁場は「石川県以北を中心に形成」と予測されています。

※1～3は以下をご覧ください。

※1 : http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr27/20150428_n/20150428-n.pdf (水産総合研究センターのホームページより)

※2 : http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/shindan/index_sst.html (気象庁のホームページより)

※3 : <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr27/20150408/20150408press.pdf> (水産総合研究センターのホームページより)

島根県沖でのスルメイカ漁況

主要3港(浜田、恵曇、西郷)における小型イカ釣(5トン以上30トン未満)によるスルメイカの月別の水揚動向を図1に示しました。平成27年の1月～3月までの水揚量は674トンで、前年・近年平均を上回る漁況で経過しています(前年比273%、近年平均比201%)。

日本海では、1月～3月は主に南下するスルメイカ冬季発生系群が漁獲され、本県では近年は低調な水揚状況が続いていましたが、久しぶりにまとまった水揚げがみられました。スルメイカの回遊経路は海水温と密接に関連しており、今年の海水温の分布状況によりスルメイカの南下経路が例年より沿岸寄りとなったことが要因と推測されます。

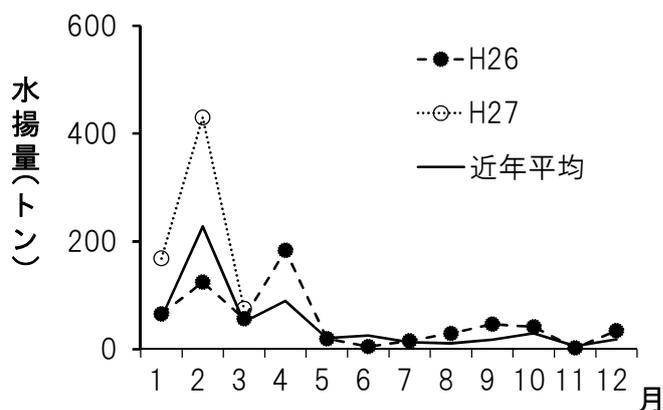


図1. 主要3港(浜田、恵曇、西郷)におけるスルメイカの水揚動向